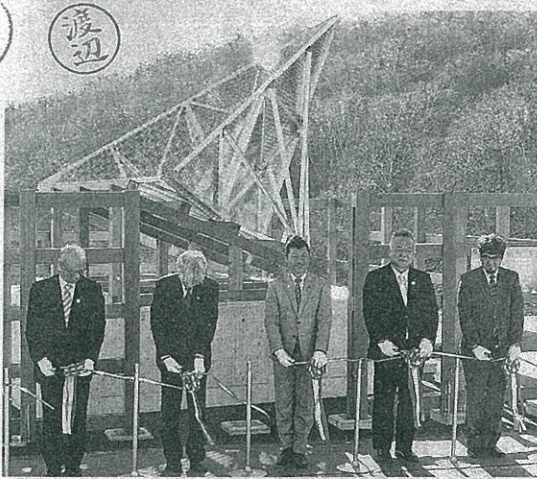




テープカットで完成を祝う若林市長ら

宇宙航空研究開発機構(ＪＡＸＡ)の「人工衛星用コーナーリフレク

人工衛星用コーナーリフレクター完成

宇宙空間の交信始まる

午後、富士山御殿場口新5合目第3駐車場で行われ、若林洋平御殿場市長やＪＡＸＡ第一宇宙技術部門宇宙利用統括の館和夫さん、市議会や地元の玉穂財産区、市観光協会など関係者約30人が出席した。

若林市長は式典で「御殿場市が宇宙開発の役に立てることはこの上ない光栄で誇りでもある。コーナーリフレクターが何なのかということについて、看板を見て『宇宙とつながっている』ことを想像し、富士山も楽しんでもらえたらありがたい」とあいさつし、テー

プカットを行ない、コーナーリフレクターの完成を祝った。

人工衛星用コーナーリフレクターは、人工衛星が観測した画像データの正確性を保つための基準点となる装置。陸域観測技術衛星2号「だいち2号」などが発信するパルス電波を集約して反射し、発信元の衛星が受信した位置情報や画像データと実際のコーナーリフレクターの正確な緯度・経度・高度の地図情報との比較による校正・検証で解析時の微調整を行う。常に正確な観測データを迅速で適格に提供できるようにしている。

コーナーリフレクターの設置は、電波干渉が少なく、周囲に構造物などがない平坦地の条件を満たす場所として選ばれた。

御殿場口新5合目(標高1440㍎)に市が用地を確保し、ＪＡＸＡが装置を整備した。完成したコーナーリフレクターは、一辺が3㍎のアルミ板を組み合わせた三角すい型で、富士山特有の強

風や積雪などにも耐えられるように設計され、高精度を要する軌道上の衛星と正対する角度で台座に固定されている。日本上空を通過する「だいち2号」は、高度628㍎から御殿場口のコーナーリフレクターに電波を送り、受信データなどをＪＡＸＡに送信する。「だいち2号」は天候の影響を受けずに地表や森林分布、地殻変動などを高精度で観測することが可能で、学術分野だけでなく、災害時の被災

状況の詳細かつ迅速な実態把握など災害対策への活用も期待されている。市とＪＡＸＡは、平成29年12月に全国初の「人工衛星の校正・検証と衛星データ利用などに関する基本協定」を締結した。両者は「だいち2号」の運用および次期先進レーダー衛星開発のための校正・検証、防災や減災、教育振興を目的とした観測データの活用、市民の宇宙教育推進などで連携して取り組んでいる。



発行所
株 岳麓新聞社
御殿場市新橋669-25
電話0550(82)0080
編 集 FAX0550(82)0088
告 告 専 用 電話0550(82)8321

設立1973 創業1923
100年企業を目指して

95th HOOEI



宝永技建 株式会社

hooei-home.jp